

オリンピック・パラリンピック教育

車椅子体験（バスケットボール）



車椅子バスケットボールの様子

10月25日、6年を対象に、石井 康二 氏（※1）と一橋 卓巳 氏（※2）をお招きし、車椅子バスケットボールの学習をしました。

前半は、日常生活用の車椅子と競技用車椅子を比べて違いを探してから、一人一人が車椅子を体験しました。日常生活用と競技用の違いでは、「タイヤの大きさや角度が違う」、「日常生活用には押す人のための取っ手とブレーキがある」、「競技用は足元にバンパーがある」、等の意見が出ました。そうした違いを踏まえて、実際に2つの車椅子を体験してみると、それぞれの車椅子の利点について実感することができました。

後半は車椅子バスケットボールのゲームを男女別で行いました。試合中は行きたい方向に思うように進めなかったり、周りの人とぶつかってしまったり、こぼれたボールを拾いに行くことに一苦労したり等、車椅子の使い方に苦戦していましたが、子供たちは夢中になって楽しんでいました。その後、2グループに分かれて、石井氏と一橋氏への質問コーナーが開かれました。質問コーナーでは「お風呂に入る時にはどうするのですか？」という質問が挙がり、脱衣方法や入浴方法について教えてくれました。その中で、足は温度を感じないため、冬場のお風呂に肩まで入って水風呂だとわかったという大変な話もありました。

最後の講話では「できないことを数えるより、できることを数えよう」というメッセージを伝えてくださいました。子供たちにとって今回の車椅子体験は、誰もが可能性に目を向けて進んでいくことの大切さを学ぶ機会となりました。今回の体験を踏まえ、今後も障がい者理解や自分を見つめる時間を増やして行って欲しいです。



使用した競技用車椅子



子供たち全員が車椅子の体験をしました。



石井氏との質問コーナー



一橋氏との質問コーナー



お礼の花束を贈りました。



実は馬場先生、小林先生も
車椅子バスケットボールに挑戦しました。

※1 石井 康二 氏

高校時代に交通事故により、両足に障がいを負う。社会人になってから、車椅子バスケットボールの「激しさ」に魅了され、地元のチームで本格的に競技として始める。車椅子バスケットチーム NOEXCUSE のキャプテンとして、2012、2013 年の選手権大会にて準優勝をおさめる。2014 年よりパラセーリングに転向し、リオデジャネイロパラリンピックでは最終予選に出場。2012 年から始めた車椅子ソフトボールでは、5 年連続で日本代表に選出され、アメリカで行われる世界選手権に出場している。

※2 一橋 卓巳 氏

2009 年、20 歳の時に仕事上の事故で脊髄損傷となる。怪我をした当初は、残念な気持ちから目的なく毎日を過ごしていたが、2010 年入院中の病院で誘われ、車椅子バスケットボールを始める。車椅子でも大好きなスポーツが出来ることや仲間と一緒に試合や遠征にいけることで生活が一変した。2015 年、インターネットを見て、車椅子ソフトボールを始める。2017 年、アメリカで行われた車椅子ソフトボール世界大会に日本代表として出場。現在はもっと多くの人に車椅子ソフトボールを知ってもらい応援してもらえるよう頑張っている。